

## 次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でもいただいた御意見の概要

### 1 会の名称

平成 30 年度第 1 回県南広域振興圏地域協働委員会議

### 2 県側出席者

県南広域振興局

政策地域部政策推進室

### 3 開催日時

平成 30 年 5 月 30 日（水）13：30～16：30

### 4 主な御意見の概要

- 人口減少・人材確保について
  - ・ 今後 10 年を見据えたときに、全国的に見ても人口減少には歯どめがきかない。強力に何か進めて支援等をしないと、さらに 10 年後、20 年後というのはもっと深刻な状況になる。
  - ・ 企業で働く上で人材というのは間違いなく必要。計画には大雑把に書いているが目標値もあればいい。
  - ・ 1 組の両親から 2 人のお子さんが生まれない限り、人口は減少する。そういった意味からも生まれてからの子育てにも力を入れてやっていただけると、非常に子育てしやすい環境が生まれる。
- 交流人口・関係人口について
  - ・ 交流人口の活動（グリーンツーリズム、修学旅行等）を行っているが、関係人口を増やす必要、人との関係性をつくる必要がある。民泊など少人数とのつながりが、今、大きなつながりとなっている。
  - ・ 農村で同じ空間、時間を過ごしてもらって提案を岩手県で実現できたら良い。岩手県の人ではない人との関係で私たちは成り立っている。
- モータリゼーションの将来について
  - ・ 10 年すると自動運転の車両が市街地を走っているかもしれない。普及するには 20～30 年はかかると思うが、無人のバスや自律型のバスが走るということも、将来は出てくる可能性があり、モビリティ環境の進化が 10 年後は起こってくると思う。
  - ・ 技術革新には、どの地方自治体もすごく興味があり、地域間競争になるかもしれないが、試験をやるなら岩手でという発信をこの 10 年間すべきだろうと思う。交通量の少ない道路を提供するという点では、岩手県が手を挙げたらいいのではないかと思う。
  - ・ 高速道路、新幹線もそうだが、首都圏から技術者が来やすい環境に岩手県はあるだろうと思う。宮城県は、人口も多く、東北の主要都市だが、技術の革新の段階で負けない、様々な研究の誘致をしていただきたい。

- ・ 10年ごとに総合計画を策定し、今回「幸福」をテーマに策定しているが、前回の10年の検証も入れながら、それを踏まえて、この「幸福」を加えて策定するといった説明が必要になる。
- ・ 「幸福」は、誰かが与えてくれるものではなく、その人の価値観。同じ環境を与えても幸福を感じる人もいれば、幸福に感じない人も当然いることなので、非常に難しい。
- ・ 地元の若者が、自分の夢を仕事にして、地域の人たちに感謝や、やりがいを持てるようになれば、幸せであると思う。色々なことを知ったり、経験したり、体験したりする中で、地元の中で自分がこれをなりわいとしていけば、みんなの役にも立って、やりがいを持った人生を歩めるということを感じるようなことを、若い人たちに大事に考えてもらいたいと思う。

○ 「希望郷いわて」について

- ・ 「希望郷いわて」というフレーズはなくなってしまうのか。「幸福」という言葉をテーマに掲げてということは良いが、「希望郷いわて」も残しつつ進めていただければと思う。

○ ものづくり産業の10年について

- ・ ものづくりの10年は、ものすごい変化である。色々な変化がある中で、一番大きな変化が第4次産業革命。電気自動車やITという部分で言えば分かりやすいが、モータリゼーションが大きく動いていく10年になる。
- ・ 県南地域を考えると、自動車産業やIT産業が集積しており、このエリアが今後10年、中国をはじめとする世界と戦っていく拠点になるのではないかと。
- ・ 電気自動車や自動運転の車などのエンジニアをどんどん受け入れて、県南地域から日本をリードするぐらいの気持ちで、行政に行動してもらいたい。

○ 教育について

- ・ 教育という部分が見えていない感じがする。第5章の「教育」分野でのサブタイトルでは、「学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばしていくことができる岩手」という表現だけで終わっている。ものづくりをはじめ、様々な分野で、教育が原点である。人を育てることが見えていないのが寂しい。

○ 総合計画について

- ・ 10年の総合計画のもとで、どうやるかが本当に大事。意見を聞くのは良いが、意見を聞いて世の中が変わるほど甘くはない。官民の協力の仕方について、計画を立てて意見を聞くという繰り返しではなく、細かいプロセスに落とし込んで施策をやっていくように変えたら良いのではないかと。